

令和7年度 第3回湖東圏域公共交通活性化協議会総会

開催日 令和8年3月30日（月）9時30分～11時00分

開催場所 彦根市役所 5階 5-1、5-2会議室

出席者 別紙参照

1 開 会

2 議 事

(1) 「第1号議案 令和8年事業計画（案）」について（資料1-1、1-2）

- ・ 第1号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

● 轟委員（滋賀県立大学准教授）

- ・ 資料1-2のP.4に新たに追加となった運行制度（システム）改正の記述があるが、後ほど詳しい説明があると思って良いか。
- ・ 利用者の費用負担増加は不採用のような書きぶりであるが、結論がでていないのであれば書き振りは修正した方が良い（資料4の議論を踏まえて）。

● 事務局

- ・ 資料4で経緯や検討方針は後ほど説明する。
- ・ 「ア 運行制度（システム）改正」の記載内容は再度、検討する。

(2) 「第2号議案 令和8年度収支予算（案）」について（資料2）

- ・ 第2号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、質疑応答はなく、異議無く承認された。

(3) 「第3号議案 生活交通確保維持改善計画（案）」について（資料3）

- ・ 第3号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。その後、異議無く承認された。

● 村岸委員（豊郷町老人クラブ連合会 会長）

- ・ 愛のりタクシーはリピーターが多いと思うが、実際の利用人数はどれくらいいるのか。把握しているのであれば教えて欲しい。
- ・ 豊郷町でも同じ方が何度も利用しているように思える。

● 事務局

- ・ 愛のりタクシーの利用者数はP.4～5に記載のとおり、年々増加傾向にあり、全て延べ人数で整理している。
- ・ 事務局でも実人数は把握できていない。

(4) 「報告事項 愛のりタクシー運行システム等の検討」について (資料 4)

- ・ 報告事項について、滋賀県より説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 轟委員 (滋賀県立大学准教授)

- ・ P.2 にある通り、現在の料金 400 円、800 円に対して消費税転嫁、運賃改定を行って
いれば本来は 490 円、980 円と理解しているが、400 円区間を流しのタクシーに乗っ
たとしてもメーター運賃はこの値段になるのか。

● 事務局

- ・ 愛のりタクシーの場合、400 円区間でも距離にばらつきがあるため、単純な比較は難
しい。ただし、愛のりタクシー運賃が 500 円以上となると、初乗りより高くなる可能
性はあるが、基本的には通常タクシーより高くなることはないと思っている。

● 轟委員 (滋賀県立大学准教授)

- ・ 利用者の一般感覚と比較した方が良い。P.5 での値上げ (利用者への負担) の試算パ
ターンは理解できるが、路線バスよりは高いが、タクシーよりは安いなど、既存の他
交通手段の比較で住民に説明した方が良い。
- ・ 値上げの負担感に対して効果が低いため、値上げではなく、借り上げ方式を検討する
と資料 2 や本資料で記載しているが、それで良いか。

● 事務局

- ・ 今回の試算は運行システムを議論する上でどの程度効果があるかを把握しておくべ
きと考え、運賃パターンはいくつも考えられる中、本来の運賃や目標達成のための運
賃等でまずは試算した。
- ・ 最終的に値上げやむなしとなれば、他運賃での試算や妥当な運賃の議論は必要である。

● 轟委員 (滋賀県立大学准教授)

- ・ 資料 2 の記載では効果が小さいため、運賃値上げは難しく、借り上げ方式 (AI 導入)
を検討するとあるが、借り上げ方式でも課題も多く、どちらを導入するか分からない
現状では記載内容を見直した方が良い。
- ・ 負担感に対する公平性や適正価格の議論をもとに運賃は設定すべきである。

● 北村委員 (愛荘町秦荘老人クラブ連合会 副会長)

- ・ 愛のりタクシーがようやく普及してきたと思う。
- ・ 行政負担が多いため、値上げを検討されているが、一方で利用者が減る可能性がある。
値上げはもう少し待っても良いのではないか。

● 森委員 (彦根市社会福祉協議会 地域支援課長)

- ・ P.6 の中に公共ライドシェアが含まれているが、福祉部局でも 78 条の助け合い交通
も進んでいる。
- ・ 買物支援の仕組みと協力しながら、情報共有を行い、移動の選択肢をもたせたら良い。

● 宮野委員 (多賀町民生委員児童委員協議会 児童青少年部会長)

- ・ 愛のりタクシーの利用者は高齢者が多く、節約のために一停留所を歩く方もいる。こ
れから免許返納者や利用者も増えてくることを考えると、生活しやすい運賃設定が望
ましい。

- ・ 多賀町でも買い物支援などでライドシェアをしているため、今後はうまく連携して欲しい。

● 轟委員（滋賀県立大学准教授）

- ・ 事務局として、今後検討する借り上げ方式の導入可能性（見込み）はあるのか。

● 事務局

- ・ 導入台数による。導入台数によっては現在の行政負担を減らせる可能性があると思っているが、現時点で具体的な数値を示すことはできない。
- ・ 当圏域は利便増進実施計画を策定している関係で利便増進効果を示す必要があり、1市4町で調整する内容が多いと認識しているが、導入は不可能ではないと思っている。

● 轟委員（滋賀県立大学准教授）

- ・ AI 導入も含めて、国庫補助ありきの計画で大丈夫か（持続可能性）。
- ・ 一方で、以前は路線バスの代替として愛のりタクシーを導入した経緯を考えると、借り上げ方式を導入した際に予約がいっぱいで乗れないという問題（公共交通の担保）は議論の前提となる。
- ・ 一括りにせず、経済的に厳しい人に対してもサポートする等、公平性の担保や適正価格を検討して欲しい。

● 塚田委員（近江タクシー株式会社 取締役業務部長）

- ・ 滋賀県内の市町でいくつか乗合タクシー事業をさせて頂いている。AI オンデマンド交通で言えば、日野町と竜王町で実施しており、米原市では令和8年度にエリア運行からAI デマンド交通に切り替える議論をしている。
- ・ 湖東圏域においてもデマンド交通導入を検討する上で切口はいくつかあると思うが、一つの選択肢としてAI デマンド交通がある。
導入地域ごとにどのようなニーズに対応するのかによって、仕組みや条件も様々であるため、今後のよりよい公共交通の維持に向けて協力していきたい。

（5）「報告事項 自動運転バスにかかる実証結果」について（資料5）

- ・ 報告事項について、滋賀県より説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 野本委員（聖泉大学名誉教授）

- ・ インバウンド（外国人）の利用者はいたのか。
- ・ それぞれで目的があったと思っているが、今回の滋賀県の取り組みについて、ターゲットや位置付けを補足説明して欲しい。

● 森安委員（滋賀県土木交通部交通戦略課）

- ・ インバウンドは10名程度で台湾、韓国、中国の方であった。
- ・ 事前準備の期間は海外の方が多くいたが、実証運行の時期は少なかった印象である。

● 野本委員（聖泉大学名誉教授）

- ・ 自動運転は人手不足への対応が目的であり、彦根城まで行きやすいルートのため、自動運転を導入しやすいと思う。
- ・ 令和2年に近畿運輸局地域公共交通優良団体表彰を受けた際に運輸局長と雑談する機会があり、地方分散がインバウンドの課題と認識していた。

- ・ 彦根市はひこにゃんも有名であるため、世界遺産登録も含めて観光の誘致としてPRすべきである。
- 田辺委員（彦根警察署 交通課長）
 - ・ 滋賀県としてレベル4に向けて令和8年度も実証運行の予定はあるのか。
 - ・ 実証運行する場合は彦根市で継続するのか、他地域で考えているのか教えて欲しい。
- 福島委員（滋賀県土木交通部交通戦略課 参事）
 - ・ レベル4の実現に向けて、同じ地域で実証運行をすべきと考えているため、彦根市で継続したいと考えている。
- 轟委員（滋賀県立大学准教授）
 - ・ 今回の実証運行は国土交通省等の補助が入っているのか。
- 福島委員（滋賀県土木交通部交通戦略課 参事）
 - ・ 今年度は内閣府の補助事業として実施している。
- 轟委員（滋賀県立大学准教授）
 - ・ 今回のように補助金が導入されている場合でも営利を目指しても良いのか。
- 福島委員（滋賀県土木交通部交通戦略課 参事）
 - ・ 先ほどのご意見にあった補助事業ありきでの運用は良くないという考え方は自動運転でも同様である。経済効果をどのように確保するか、どこから投資をひばってくるかなど、難しい面は多いが、営利は追求していきたい。

（6）「報告事項 駅前お城通り道路空間利活用社会実験にかかる路線バスの運行」について（資料6）

- ・ 報告事項について、彦根市都市計画課より説明及び報告がなされた。質疑応答はなった。

3 閉会

以上